熊本の病院紹介

地域に求められる医療を目指して

社会医療法人黎明会　宇城総合病院
病院長　江上　寛

宇城総合病院は宇城市松橋町のほぼ中央に位置し、昭和五十九年、宇賀岳病院としてスタートした病院です。開設と同時に救急告示病院の指定を受け、平成十一年に災害拠点病院、平成十四年に第二種感染症指定病院の指定を受け、民間病院ではありますが公的な役割を担い、開放病床型病院として、他医療機関と連携しながら地域医療に携わっています。平成二十三年に経営母体である医療法人黎明会は、これまでの救急医療の実績をもって社会医療法人に認定され、宇城総合病院は公的病院の仲間入りをしました。そして平成二十四年に病院を新築移転し、病院名も宇城総合病院と改称して新たなスタートを切りました。

職員数三九五名、常勤医師数二三名、一八診療科、病床数二〇四床、一〇対一看護体制の病院です。手術室は無菌手術室を含む三室で、外来には一般外来、救急外来の他、透析センター、画像診断センター、リハビリテーションセンター、糖尿病センターなどのセンター群があり、病棟は急性期病棟二ユニット、包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟各一ユニットから成っています。

新病院の建設にあたっては、省エネルギー機能が高く地域への環境負荷の少ない資機材の使用、室内の快適性、景観への配慮など環境性能を重視した設計に取り組み、熊本県初の建築環境総合性能評価システム（CASBEE）Sクラスの認定をいただきました。効率的でスリムな運営を目指す新病院にふさわしい称号を得たと思っています。

救急車の来院台数も年々増加し、昨年は一三〇〇台を数えるにいたりました。このため病床不足に陥ることもありましたが、本年四月、ともち未来病院の事業譲渡を受け、総病床数二〇四床まで増床することができました。この増床が病床不足の解消につながり、さらには地域の方々へのサービス向上に繋がってくれればと期待しているところです。

さて地域医療における医師不足、看護師不足が叫ばれて久しくなりますが、この宇城地域も例外ではありません。病院では、働きやすい魅力ある職場にしようと勤務環境整備にも力を入れてきました。その中で、院内保育室の整備、産休・育休制度の整備、リフレッシュ休暇制度やボランティア休暇制度の創設、ワークライフバランスの推進、人事相談室の設置などの工夫が評価され、昨年男女共同参画推進事業所として熊本県知事表彰を受けました。これを励みにさらなる勤務環境整備に取り組んでいきたいと思っています。新築移転に際し、屋内外に基準の五倍以上の木々や草花を植え、敷地内や周辺の緑化を行ってきました。緑が豊かに育ち、四季折々の花が咲くようになれば、寛ぎの場所としての新しい病院の一面をお見せできるようになると思います。

誠実な医療を実践し、地域に貢献することを理念として仕事を続けています。決して豪華さや派手なパフォーマンスはありませんが、「断らない医療」を目指し、これからも地域に求められる病院であり続けられるようスタッフともども努力を続けてまいります。皆様には変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。